

第23回
マルチスピーシーズ
人類学研究会

食と肉の種的転回

開会挨拶 10:00-10:05
水元豊文(熊本大学 文学部長)

趣旨説明 10:05-10:25
奥野克巳(立教大学)
「人類学的なるものを越えた人類学としての
マルチスピーシーズ研究」

研究発表 10:25-18:00
司会=シンジルト(熊本大学) / 佐藤岳詩(熊本大学)
近藤祉秋(北海道大学) / 奥野克巳(立教大学)

セッション1: 狩猟から考える食肉 10:25-12:00

辻村伸雄(国際ビッグヒストリー学会)
「ビッグヒストリーから考える食肉・狩猟」

山口末花子(岐阜大学)
「土地で一番美味しい食へ物としての野生の肉
カナダ、ユーコンのヘラジカと
西表島のリュウキュウイノシシの比較から」

菅原和孝(京都大学名誉教授)
「南部アフリカ狩猟採集民グイの
動物認識と摂食忌避再考」

北條勝貴(上智大学)
「仏教典籍が内包する狩猟感覚」

セッション2: 食肉の文学・芸術・哲学 13:00-14:35

吉村萬巻(作家)
「捕食される存在としての人間: その文学的考察」

上妻世海(文筆家/アートキュレーター)
「制作論からみるマルチスピーシーズ人類学」

逆巻しとね(独立研究者)
「共生態としての種: ダナ・ハラウェイと内なる協働」

佐藤岳詩(熊本大学) 「動物倫理と肉食」

セッション3: 種間関係としての食肉 14:45-16:20

近藤宏(立命館大学)
「ある肉食形態の系譜と敷衍:
パナマ東部先住民エンベラの豚肉について」

宮本万里(慶応大学)
「北東インド地域における屠畜と葬送:
人体と動物の境界と越境」

山田仁史(東北大学)
「肉食における嗜好と忌避: 台湾の犬肉食を中心に」

石倉敏明(秋田公立美術大学)
「『内臓』と『外臓』の論理: 可食性の人類学に向けて」

セッション4: 総合討論 16:30-18:00

研究懇談会 19:00-21:00

問い合わせ先

シンジルト shinjilt@kumamoto-u.ac.jp
佐藤岳詩 sattake@kumamoto-u.ac.jp
奥野克巳 katsumiokuno@rikkyo.ac.jp

12月8日[土]

10:00-18:00

熊本大学文法学部本館
共用会議室

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/campusjohou/kurokamikitaku>

Species Turn of Eating and Meat

Multi-Species Workshop in Japan
Kumamoto University
Faculty of Letters
Graduate School of Social and Cultural Sciences
The Kyushu Anthropological Association

肉はヒトを養うだけでなく、人と人の絆、人の内面性も育む。他方、肉の側から見れば、ヒトは他種と食に相互依存する点で、脱人間中心主義的ヴィジョンが得られる。本シンポジウムでは、マルチスピーシーズ人類学の理論を生態学、歴史学、哲学、文学、アートにまで拡張して、食肉実践にみられる種間関係のダイナミックスを描き出したい。

主催=基礎研究(A)「種の人類学的転回: マルチスピーシーズ研究の可能性」後援=熊本大学(文学部、大学院社会文化科学研究科) / 九州人類学研究会